

小学生の語彙の獲得に対する流暢性訓練の効果

Effect of rate-building training for elementary school child
on acquisition of vocabulary.

○小松崎瑠未・菅佐原洋

(常磐大学大学院人間科学研究科) (常磐大学人間科学部)

Tamami Komatsuzaki, Hiroshi Sugasawara

(Tokiwa University, Graduate School) (Tokiwa University)

Keywords: rate-building training, vocabulary, elementary school child

問題と目的

近年、正反応率だけではなく、併せて時間も学習達成のための指標とする、流暢性訓練やrate-building trainingといった学習方法の有効性が指摘されている(野田・松見, 2009)。これらの訓練では、1分間または30秒間のタイムトライアルを行なったり、訓練時のタイムを測定したりしている。流暢性訓練を行うと、正反応率だけを指標とする訓練と比較して、学習内容の保持や、般化において有効であるといわれている。

そこで、本研究では、同年齢の児童と比較し、語彙が少ない小学生男児を対象に流暢性訓練を行うことで、どの程度語彙が獲得されるのかについて検討することを目的とした。

方法

参加児: 小学校3年生の男児(以下、CIと記す)が本研究に参加した。CIが8:06時に実施したPVT-Rでは、VA6:10(VQ80)と語彙発達の遅れが疑われていた。研究協力については、書面にて同意が得られたケースであった。

場所と期間: 場所はA大学のプレイセラピー室を使用し、学校机を挟んだ対面形式で行った。期間はX年1月から4月の間の4セッションのうち、各セッションの15分程を利用した。

刺激: 小学校1、2年生の国語の教科書から抜粋した48単語を絵カードにして使用した。また、プロンプトとして、絵カードの名称が6つずつ印刷されたB5のプロンプト用紙8枚を用意した。

実験デザイン: 事前事後デザインを用いた。

手続き :

事前評価: 絵カード刺激48単語を1回ずつ提示し、命名をしてもらった。命名できない単語には、プロンプト用紙を出し、その中から選択してもらった。

介入(流暢性訓練): 介入ではまず、事前評価でプロンプト用紙を使用した単語および無反応であった単語を未学習単語として平均4単語、正反応だった単語を既学習単語として、平均4単語選択し、刺激セットを作成した。その後、刺激セット毎に、実験者が絵カードをしばらく提示し、命名を求めた。その際、プロンプト用紙も使用した。介入は、各刺激セットで個々の未学習単語が、3試行連続で正反応するまで繰り返し実施した。未学習単語が達成基準に到達したら、事後評価に移行した。

事後評価: 事後評価は、事前評価と同様の手続きを行った。

結果

事前評価、事後評価で、正しく命名された語数と、介入における未獲得単語の学習率をFigure 1に示した。未獲得単語の学習率は、そのセッションで導入された未獲得単語数に対する、獲得できた単語の割合を示している。

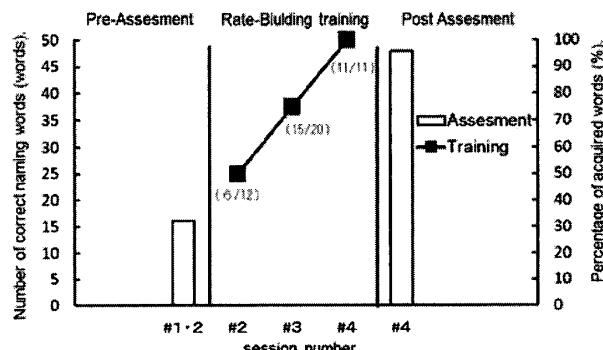


Figure 1 Acquisition of vocabulary using the rate-building training

事前評価時に正しく命名できた単語は48単語中16単語であった。介入の流暢性訓練は3セッション実施した。セッション2では、3ブロック介入を行い12単語中6単語が、セッション3では7ブロック介入を行い、20単語中15単語が、セッション4では、8ブロック介入を行い、11単語中11単語が達成基準に到達した。刺激セットの繰り返し回数は、平均3.56回であった。その結果、事後評価では48単語全てで正反応が示された。

考察

流暢性訓練による介入によって3セッションで32単語が命名可能になったことから、語彙を獲得する訓練法として、本訓練法が有効であることが示唆された。また、CIも楽しく、積極的に流暢性訓練に取り組む様子も観察され、被訓練者にとっても学びやすい訓練方法であるようであった。

今後、訓練に使用した単語を用いた文章を読む速度の変化などを評価する応用評価や、獲得した内容の保持評価についても行う必要があるだろう。

引用文献

野田航・松見淳子 (2009). 児童の漢字の読みスキルの保持・耐久性・応用に及ぼす流暢性指導の効果の実験的検討 行動分析学研究, 24, 13-25.